

美星スペースガードセンターにおけるデータ解析・公開システム整備

Construction of data distribution and analysis system in Bisei Spaceguard Center

寺藺 淳也[1], 浅見 敦夫[2], Asher David[2], 布施 哲治[3], 橋本 就安[4], 磯部 琇三[5], 中野 圭一[2], 西山 広太[6], 大島 良明[4], 梅原 広明[7], 浦田 武[4], 吉川 真[8]

Jun-ya Terazono[1], Atsuo Asami[2], Asher David[2], Tetuharu Fuse[3], Nariyasu Hashimoto[2], Syuzo Isobe[4], Syuichi Nakano[2], Kota Nishiyama[2], Yoshiaki Oshima[2], Hiroaki Umehara[5], Takeshi Urata[2], Makoto Yoshikawa[6]

[1] (財)日本宇宙フォーラム, [2] 日本スペースガード協会, [3] 国天・ハワイ, [4] J S G A, [5] 国立天文台, [6] ジェイエスジーエー, [7] 通総研・鹿島, [8] 宇宙研

[1] JSF, [2] JSGA, [3] Subaru, NAOJ, [4] NAO, [5] KSRC, CRL, [6] ISAS

<http://www.terakin.com/ja/>

(財)日本宇宙フォーラムが岡山県美星町に整備している美星スペースガードセンターでは、1m 望遠鏡の導入、及び本格運用開始を目前に控え、データ解析、及び公開のためのシステム整備が進められている。1m 望遠鏡の本格稼働が始まれば、一晩の観測で数十 GB ものデータが算出されることとなる。

これらのデータについて、現在のインターネット技術を使い、低額で、しかも観測者の手をなるべく煩わせず、なるべく自動化・省力化を図ることによって配信することが求められている。

本発表では、昨年続き、このデータ解析・公開システムの整備状況について、現状を報告するとともに、扱うデータ量としては世界でも屈指のこの施設において使用されている技術について紹介する。また、このような技術について、将来的に大容量データ解析という観点からどのような応用が可能かについて考察し、一般化するためにどのようなことを考慮する必要があるかを議論する。